

平成26年度 安積桑野会会員名簿（創立130周年）

安積高等学校長 久保田範夫（88期）

あいさつ

本校は、明治17（1884）年に創立されて以来、平成26（2014）年をもって創立130周年を迎えました。誠にめでたく、多くの同窓生の皆さんと共に、喜びを分かち合いたいと思います。また、創立130周年を契機に、安積桑野会会員名簿が5年ぶりに改訂されることとなりました。この間、本意ならずも幽明境を異にされた同窓生の方々に心より哀悼の意を表します。

明治17年に入学した生徒は31名でしたが、明治22（1889）年3月に福島から桑野の新校舎（現安積歴史博物館）に移転し、同年4月4日、木の香りも豊かな新校舎を7名の第1期卒業生が巣立ったのでした。以来、今春卒業した第127期生307名を加えて、創立以来の卒業生は32,936名を数え、まさに福島県一の歴史と伝統を有する高等学校として確かな歩みを続けています。

第127期生は、3年前の平成23（2011）年3月11日、中学校の卒業式が行われた日、長い人生の中でも数少ない正に「晴れの日」に東日本大震災を経験し、大震災後に高校に最初に入学して3年間の高校生活を送り、最初に卒業するという、謂わば「大震災後の高校第1期生」とも言えます。大地震・大津波と、それに続く東京電力福島第一原子力発電所の事故は、多くの日本人の価値観を変えるほどの大きな出来事でした。大震災以降、「ふくしまのために何かをしたい、ふくしまの復興に自分の学びを活かしたい。」このように考える高校生が増えています。勿論、世界へ飛躍しようとしている生徒も大勢いるわけですが、その場合でも、「3.11以降のふくしま」をしっかりと心に留めて、できれば福島の地にしっかりと足をつけて活躍してほしいと願っています。

安積の卒業生は、「開拓者精神、質実剛健、文武両道」という「安積の精神」を常に先輩達から学び取りながら、場所・時間や言葉・記憶を共にし、勉学に励み、部活動で仲間の大切さを実感し、紫旗祭でクラスが一つになり、安積の空気を胸一杯吸い込み、「安積」という学校文化を3年間共有して、正に安積の誇り・プライドを身につけてきたのだと私は考えます。お互いのことを知らなくても、過ごした時代が少し違っていても、「安積」という文化を「同じくする」ということが、安積を母校とする人と人とをしっかりと結びつけてきたのであり、それはこれからもずっと変わらないはずです。

最後になりますが、今回の安積桑野会会員名簿発行をお祝い申し上げますとともに、会員の皆様が今まで以上に交流を深められ、安積桑野会が益々発展されますことを御祈念申し上げてあいさついたします。